

9月2日 ルカによる福音書10章1～20節

【解説と黙想】

七十二人を派遣する

10章1～24節には、主イエスが弟子たちを福音宣教に遣わして訓練されたことが書き留められている。大きく四つに区分できる。①七十二人に対する主イエスの教え(1～12)、②彼らを拒む町への裁き(13～16)、③七十二人の帰還と報告(17～20)、④主イエスの祈りと祝福(21～24)。

9章1～6節で十二人が派遣され、その「ほかに」(1)ここで七十二人が派遣された。創世記10章のノアの子孫の系図がこの背景にあると推測されている。福音書記者ルカは異邦人キリスト者であり、異邦人への宣教、全世界への宣教を念頭に置いていると思われる。十二人がいわば新しい神の民の族長であるのに対して、七十二人は全世界の民に遣わされた使者なのである。この記事は、初代教会の福音宣教を思い浮かべて執筆されていると言うことができる。

主イエスは七十二人を「ご自分が行くつもり」(1)町や村に派遣した。けれども、主イエスが実際に行ったと記されないまま、彼らは帰って来る。初代教会の福音宣教を念頭に置くと、これは真実には、彼ら七十二人と共に主イエスご自身が同行しておられる、と理解することができる。主イエスが霊的に彼らと共におられ、それゆえ彼らは悪霊を屈服させることができた。彼らは使者であり、福音宣教は本質的に主の御業である。敵の力に打ち勝つ権威も主のものにほかならない(19)。二人ずつ遣わされるのも、証言の確かさ(申命記19:15)だけでなく、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)

ということだろう。主ご自身が共におられるゆえに、狼の群れに小羊を送り込むようなものであっても恐れる必要がない。また、目に見える結果を求めるのではなく、自らの名が天に書き記されていることを喜びとする謙そんな態度が必要とされる(20)。

「収穫は多いが、働き手が少ない」(2)。これはいつの時代にも真理である。福音宣教は収穫のために働き手を求める祈りから始まる。収穫のために働き手を祈り求めるところで、私たちは自らが主によって遣わされることを知るのである。

3～12節に、福音宣教のための具体的な手引きが書き留められる。これらは多少の文言の違いはあるが、十二人の派遣の記事と重複している。財布も袋も履物も不要なのは、必要なものを備えてくださる主を信頼するからである。「挨拶をするな」とは挨拶そのものの禁止ではなく、途中で無駄な時間を割かないための注意。「出される物を食べ、また飲みなさい」とは、聖いかけがれているかを見極める必要がないということ。もはや主のゆえにすべてが聖いからである(コリント一10:27)。

語るべきメッセージは、「平和があるように」(5)と「神の国はあなたがたに近づいた」(9)である。神の国とは神の支配であり、神の支配するところに神の平和と祝福がある。主イエスは神の平和の実現のために十字架につけられた(ヨハネ20:19～23)。それゆえ、これらは本質的に一つである。キリストの十字架による和解の恵み、平和の福音を告げ知らせることが、キリストの使者の務めである。(望月 信)

《参照箇所》 ルカ9章1～6節、マタイ10章5～25節
《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問44

9月2日 ルカによる福音書10章1～20節

【説教展開例】

七十二人を派遣する

◇……………単元のねらい……………◇

主イエス・キリストはご自分の弟子たちを用いて宣教活動を成し遂げてくださる。今、私たちもそれぞれ主イエスの弟子として遣わされている。『子どもと親のカテキズム』問44の答、「イエスさまは教会に、全世界に出て行って福音を宣べ伝えること……（使命）を与えられました」を念頭において、子どもたちを福音に仕えることへと励ましたい。

「イエスさまと一緒に宣べ伝えよう」

イエスさまの弟子として十二弟子がよく知られています。けれども、イエスさまの弟子は、もっとたくさんいました。今日の箇所には七十二人の弟子が登場します。

イエスさまは、このとき、その七十に人に対して、イエスさまの弟子であるとはどういうことなのか、何のためにイエスさまの弟子であるのかをお教えになりました。教会でイエスさまの御言葉を聞いている私たちもイエスさまの弟子とされています。皆さんもイエスさまの弟子なのです。それでは、私たちはいったい何のためにイエスさまの弟子とされているのでしょうか。

まず心に留めておきたいことは、神さまは私たちのことを愛してくださっています。このわたし、また皆さん一人ひとりを愛してくださっています。ですから、私たち一人ひとりがイエスさまによって罪を赦され、救いの恵みをいただくことが大切です。私たちがイエスさまの弟子とされるのは、一つは私たち自身のため、私たち自身が神のものとされるためです。イエスさまは、「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」とおっしゃいました。おもしろい表現ですね。天の神の国の名簿のようなものがあって、そこに名前が刻まれている。神のものとされて、この私の名前も載っている。そのことを喜びなさいとおっしゃる。ですから、私たちはまず自分自身が天の神さまのものとされるため

にイエスさまの御言葉を聞いて、イエスさまの弟子とされています。ですから、自分自身の救いをいよいよ確かなものとすることができるよう祈りましょう。

そして、もう一つ、この御言葉で教えられていることは、イエスさまの御言葉、神さまの福音を宣べ伝えることです。それが私たちイエスさまの弟子の大切な役割だと、イエスさまは教えておられます。それは、神さまが愛しておられるのは、私たちだけではないからです。神さまはとても大きな愛をお持ちです。その大きな愛で、独り子であるイエスさまさえ惜しむことなく私たちのために与えて、十字架につけてくださいました。ですから、イエスさまの十字架は私たちのためだけではない。まだイエスさまを知らない、けれども神さまが愛して選んでおられる人たちがたくさんおられるのです。その人たちを見つけ出すために御言葉を宣べ伝えなさい。そうおっしゃっておられます。

イエスさまは「収穫は多いが、働き手が少ない」とおっしゃいました。神さまの目には、多くの人が福音を待ち望んでいることが見えておられます。それで、「だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」と言って、イエスさまの御言葉を聞く喜びを知っている私たちを送り出されます。これは、どこからだれかがやって来て働き手になるとい

うことではありません。イエスさまは、私たち一人ひとりが神さまの福音を宣べ伝えるイエスさまの働き手となるように、送り出そうとしておられるのです。

そんなことを言われても、御言葉を私たちが伝えるなんて、できるのだろうか。そんなふうに思いますか。イエスさまの御言葉を聞くために来ているのに、自分が伝えるなんて、とんでもない。そう思うかもしれません。たぶん、集まっていた弟子たちも驚いたでしょうね。十二弟子はイエスさまと最初の頃から一緒にいて、寝たり食ったりも一緒にしているから、弟子として送り出されてよいだろう。けれども、イエスさまの御言葉を聞いているだけの自分たちには難しい。そう思ったかもしれません。これはとても不思議なことですが、神さまは、そんなふうに戸惑い、尻込みする人を用いてくださるお方です。それは、このとき送り出された七十二人の弟子たちも、おそらく戸惑いながら、おっかなびっくり出かけて行ったでしょう。けれども、不安に思う必要はありませんでした。立派に役割を果たして、喜んで帰って来ることができたのです。

それは、皆さんが出かけて行くとき、それは皆さんだけで出かけるのではないからです。私たちが福音を宣べ伝えるとき、そこにはいつもイエスさまが共にいてくださいます。目には見えないけれども、霊的にイエスさまと一緒にいてくださいます。イエスさまは、イエスさまの御言葉を聞くために集まる私たちといつも一緒にいると約束されました。この御言葉に「二人ずつ」遣わされたとありますね。二人ずつ、それはイエスさまを信じる者が二人三人集まる場所にイエスさまご自身が共におられるからです。イエスさまは私たちに聖霊を与えてくださって、目には見えませんが、共にいてくださいます。ですから、私たちはきちんと役割を果たすことができます。で

すから、不安に思うことも恐れることもありません。

イエスさまは、「狼の群れに小羊を送り込むようなものだ」とおっしゃいました。そのように、弟子として福音を宣べ伝えるとはもちろん簡単なことではありません。聖書の話など聞きたくないと言う人がいるでしょう。反対してくる人がいるかもしれません。けれども、小羊を守り導く大牧者であるイエスさまご自身が私たちと共にいてくださって守られます。大丈夫なのです。「財布も袋も履き物も持って行くな」とおっしゃいました。すべて天の父なる神さまが用意しておられるからです。天の御父を信じなさいということなのです。そして事実、このとき送り出された七十二人は、不安を感じながら出て行ったでしょうけれども、大丈夫であった。喜びながら帰って来ることができました。それは、私たちも同じです。ここにいるおとなの人たちも、不安がありますけれども宣べ伝えていきます。そして、確かにイエスさまと一緒にいてくださって、大丈夫なのです。

具体的に皆さんにお願いします。一つは、自分が教会に行っていること、聖書を読んでいることをお友だちに隠さないということです。隠さなくても大丈夫です。イエスさまが守ってくださり、そのことを変だと言わない、理解してくれるお友だちを必ず与えてくださいます。もう一つは、そうして仲良くなったお友だちを教会の子ども向けの集会にぜひ誘ってください。誘うだけで大丈夫です。それだけで十分、イエスさまの福音を宣べ伝えているのです。応えて来てくれるお友だちを神さまが必ず用意しておられます。人を育てるのは神さまです。私たちは、神さまが選んで育てておられる人を見つけて誘うことに励むのです。イエスさまの導きと祝福が皆さんの上に豊かであるよう、心からお祈りしています。

(望月 信)

《今週の暗唱聖句》

収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。(マタイによる福音書9章37, 38節)

9月2日

【幼稚科】

七十二人を派遣する

〈ねらい〉

子どもたちも含めて私たちがみなイエスさまに派遣されていることを知る。

〈展開例〉

おはようございます。

今日の話には、イエスさまのお弟子さんたちがたくさん出てきます。全部で七十二人です。たくさんですねえ。わたしたちの教会学校は何人いるのでしょうか？ 知っていますか？ ○○ちゃんに、○○くん、○○さん、○○先生に、全部で十人ですね。大人の礼拝の時には三十人くらいいます。イエスさまのお弟子さんたちは、それよりももっとずっといっぱいいました。イエスさまは、そのお弟子さんたちに、イエスさまのお話をするようにとおっしゃったんですね。

みんなはイエスさまのことをお話し出来

ますか？ どんなお話を知っていますか？ お友だちやみんなに、イエスさまのお話をしてあげましょうね。

〈お祈り〉

神さま。今日も教会学校に来ることができてありがとうございます。私たちはみんなイエスさまのお弟子さんです。私たちもイエスさまのお話ができるようにしてください。アーメン

〈やってみよう〉

画用紙に自分の知っているイエスさまのお話を描いてみよう。その絵を見せながらイエスさまのお話しをしてみよう。

イエスさまのお弟子さんの顔を七十二個描いてみても楽しいです。自分の顔や家族や知り合いの顔もその中に描いてみよう。

9月2日

【小学科上級・中学科】

七十二人を派遣する

1. ルカ10：1～12を読みましょう。

①72人の弟子前に派遣されたのは、何人でしたか？ 何をするために、遣わされたのですか？（9：1～6も読みましょう。）

②72人の弟子を遣わしたのは誰ですか？

③イエス様が72人の弟子に命じられたことは何でしたか？

④「収穫」とは、何のことを指していますか？

2. ルカ10：13～16を読みましょう。

①弟子をこぼんだ人は、どなたをこぼんだことになるのですか？

3. ルカ10：17～20を読みましょう。

①帰ってきた弟子たちは、何を喜びましたか？

②イエス様は、何を喜びなさいとおっしゃいましたか？ それはどういう意味でしょうか？